かえる便り 28年度16号

平成２８年８月２９日

早涼の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

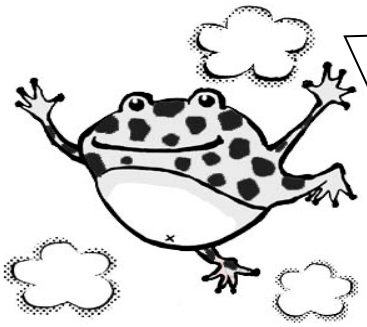
“こういう子どもに育てたい”　　教育界で尊敬する人物：斎藤喜博氏の言葉

『本真剣な子ども、本真剣になれる子どもになってもらいたい。

全心全力を集中して仕事や勉強や遊びのできる子どもになってほしい。

子どもの心をしっかりと育てれば、自然と子どもの行動は良くなる。

この心の育て方、心の訓練の仕方こそ、われわれ教育者が最も苦心すべき指導技術であり、教育技術でなければならないと考えているものである。



マネージャーは、試合には出ません。しかし、彼女達は選手が思い切り活動できるよう黙々と活動してくれています。選手が脱ぎ捨てた服や靴を揃え、熱中症にかからないよう水汲みや飲み物を準備しています。誰も文句を言っていませんよ!!
彼女達を陰で支えておられる保護者の方から差し入れやテントを頂きました。選手は試合に出られない人のためにも責任を果たして欲しいものです。皆の目標を達成することが恩返しですよ!!

指導者が真剣に専心に念念子どもの心に着目し、すぐれた人生観とか豊かな情操とか、愛情とか情熱とか、また正しい判断力とか意志力というものを、力強く子どもの心のなかに植えつけてやれば、子どもの行動は、子ども自身の意志で自然と訂正され、立派になっていくものである、と深く信じている。』　　念念：一瞬一瞬、極めて短い時間

このような想いを大切にしながら指導しています。しかし、私自身が未熟であるが故に、生徒が持つ能力を引き出せていないと感じることが多々あります。

人の話を聞くことができる力、聞く心の構えを鍛え育てる努力をすることが心を育てるために重要だと思っています。私達の耳は二つ、口は一つです。喋る倍だけ人の話に耳を傾けられる人が、豊かな心の持ち主になれるのではないでしょうか？生徒達が豊かな人生を送ることができるよう手助けしたいと思っています。